Ⅰ　実践

1　本校の人権教育の目標

法の下の平等の原則に基づき，人権尊重の精神の涵養を目的とする教育を推進するため，研修計画を位置づけ，教師自らの正しい認識を深め，自他の人権を大切にした望ましい人間関係を築こうとする生徒を育てる。

2　実践内容

（1）生徒の学ぶ意欲を高め，確かな学力を身につける学習指導の推進

互いに学び合い，認め合う中で，確かな学力を身につけることができるように，授業の改善を行っている。授業の中で，全教師が学び合いの手立てを取り入れるようにしている。自分の考えが認められたり，友達の考えに触れたりすることで，仲間と学ぶ楽しさを知ることができ，自己肯定感を高めると同時に，学ぶ意欲を高められるようにしている。また教師は「１時間の授業の中で５回以上ほめる」ことを共通実践として掲げ，生徒のよさを認め，意欲を高められるように取り組んでいる。

（2）人権メッセージの作成

生徒全員が人権メッセージを作成し，人権問題や今の社会問題についての自分の考えや，伝えたいことをまとめた。道徳の授業などを通して，思いやりや命の尊さについて考えたことを，自分の言葉で表現した。身近な「いじめ」の問題をはじめ，高齢者の人権やインターネットによる人権侵害など様々な問題に触れ，考えを深めている。

（3）人権作文の応募

夏休み前に，これまでに発行されている人権作文集を読んだり，作文集を道徳の教材としたりすることで，人権感覚の育成を図った。夏休みの課題として人権作文に取り組ませ，人権作文コンテストに応募し，多くの生徒が入賞することができた。

（4）総合的な学習の時間での取り組み

１学年では，「郷土『日立』」というテーマの中で，身近な地域の方とふれあう時間を設けている。地域のコミュニティ推進会ボランティアふれあい活動部との共催による「ふれあい交流会」には，主に地域の高齢者が参加し，卓球や郷土かるた，輪投げなどのレクリエーション，給食の会食会を行っている。これらの活動を通して，高齢者を身近に感じるとともに，生徒自身が地域の一員としての役割について考えられるようにしている。（資料１）

【資料１　ふれあい交流会の様子】

（5）古紙回収運動

協力，協働の心を育てるとともに，労働の大切さ，資源の有効活用の重要さを考えること，地域への貢献やボランティアを通じての社会参加をする目的で，古紙回収を行っている。地域の人々からの支えを実感し，地域の一員であるという意識を高めるとともに，人の役に立ったときの満足感や自己有用感を感じられるようにしている。（資料２）

【資料２　古紙回収の様子】

（６）心と体を大切にするための取り組み

思春期講座として，１年生は「歯と口の健康集会」「喫煙防止教室」，２年生では「薬物乱用防止教室」，３年生では「性に関する学習会」を行い，自分にも目を向け，自身も大切にしようとする気持ちを育てている。また，２年生では「立志式」を行っている。自分の成長を改めて見直すとともに，周囲への感謝の気持ちをもち，これからよりよい成長するための機会となっている。

（７）幼児とのふれあい交流会

２年生では家庭科の授業で幼児向けの絵本作りに取り組み，幼稚園訪問をしている。幼児にわかりやすく伝えるためには，どのような言葉を使えばよいのか，を考え，幼児への思いやりをもったり，関わり方を考えたりすることができた。また，そうした活動の中で，幼児を一人の人間として大切にしたり，尊重したりするなど，多くのことを学ぶよい機会となっている。（資料３）

【資料３　幼稚園訪問の様子】

（８）校長賞の授与

本校では，３つの目標「時間を守る，迷惑をかけない，他人の役に立つことをする」のもと，生徒と教師が同じ目標に向かって行動するように心がけている。特に，「人の役に立つ」という目標に向けた一人一人の頑張りを賞賛するために，「校長賞」を授与している。「熱心な清掃への取り組み」「友人を思いやる行動」「快いあいさつ」など，日常の中で，教師が生徒の良い点を見つけ，推薦している。１年間で全員が受賞できるようにし，自己肯定感の高まりにつなげている。

（９）ハイパーQU テスト，いじめに関するアンケート，面談・教育相談の実施

４月と１１月にハイパーQU テストを実施して，その結果を分析して，学級経営に生かしている。また，いじめに関するアンケートを毎月実施し，生徒の悩み等を把握するとともに，生徒が安心して学校生活を送れているかを把握できるように努めている。その他には，二者面談を学期に１回行い，事前の生活アンケートをもとに話を聞き，きめ細やかに生徒の見守りができるようにしている。

３　成果

○毎日の生活の中で互いを認め，高め合う機会を多くつくることができた。友達が褒められている場面を見ることで，自分もそのように振る舞おうとするようになってきた。校長賞を受賞した生徒が，その行動が自然と行えるようになったり，受賞した友達を褒めたりと，日常の中によりよい行動をしようとする意識が根付いてきている。

Ⅱ　今後の課題

○人権作文コンテストの応募や幼稚園訪問などで，国語部や家庭科部の人権教育が活発になっているが，他教科による人権教育も必要である。全職員が一体となって生徒の人権意識の向上に取り組むためにも，日常の学校生活はもちろんのこと，授業でも題材を研究していく。

Ⅲ　人権コーナー設置の様子

人権コーナーには，月の道徳計画，道徳で使った資料，授業の感想，魔法の言葉を掲示している。道徳で使った資料や感想をみて感じたことを振り返ることができ，日頃から人権感覚を育成できるようにしている。また，魔法の言葉は，生徒の励みになったり，自分を振り返ったりできる言葉を掲示して，意識の高揚を図っている。（資料４）

【資料４　人権コーナー】